



平成 27 年度

りんご病害虫防除暦

JA 中野市営農センター

散布日	散布時期	散布薬剤（水 100ℓ当り）	収穫前 使用 時期	使用 回数 （以内）	散布量 （ℓ）	対象病害虫 （発生病害虫）	注 意 事 項
月 日	第 1 回 3 月下旬 発芽直前	（水 88ℓ） スプレーオイル *① 2ℓ 石灰硫黄合剤 *② 10ℓ	発芽前 発芽前	— —	300	腐らん病 ハダニ類 カイガラムシ類	① スプレーオイルに石灰硫黄合剤を加用し、よく攪拌する。 ② （注意） 石灰硫黄合剤に代えてペフラン液剤 25 の 1000 倍（休眠期、6 回以内。ただし開花期以降は 3 回）を使用してもよい。混用の際は、ペフラン液剤 25 を調合した後にスプレーオイルを加用する。
月 日	第 2 回 4 月中旬 （発芽 10 日後）	展着剤 *①、② 10mℓ トレノックスフロアブル 200mℓ	30 日前	5 回	350	黒星病 黒点病 （うどんこ病）	① 黒星病・黒点病の初期発生を抑えるため必ず散布する。 ② （注意） 前年度うどんこの病発生圏は、コロナフロアブル 400 倍を加用する。
月 日	第 3 回 4 月下旬～ 5 月初旬 （開花直後）	展着剤 *①、②、③ 10mℓ オンリーワンフロアブル 50mℓ サムコルフロアブル10 20mℓ	7 日 前 前日	3 回 3 回	400	黒星病・黒点病 うどんこ病 ケムシ類、ハマキムシ類 （アブラムシ類）	① （注意） 黒星病・黒点病の初期発生を抑えるため、降雨が続く前に確実に散布する。 ② （注意） 開花前が高温で、アブラムシ類の発生が見られる場合は、ウララDF2000 倍（14 日前、2 回）を加用する。 ③ オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル 3000 倍（7 日前、5 回）でもよい。
月 日	第 4 回 5 月上中旬 （落花後） （前回より 10 日後）	展着剤 *① 10mℓ アスパイア水和剤 *② 200g	30 日前	3 回	450	黒星病、黒点病 うどんこ病、赤星病 （ケムシ類） （ハマキムシ類）	① （注意） 5 月末までは、生理落果助長回避のため、有機リン剤は使用しない。 ② アスパイア水和剤に代えて、スコアMZ水和剤 500 倍（30 日前、3 回）でもよい。 ③ ケムシ類の発生が目立つ場合は、フェニックスフロアブル 4000 倍（前日、2 回）を加用する。
月 日	第 5 回 5 月中下旬 （前回より 10 日後）	展着剤 ユニックス Z 水和剤 *①、② 10mℓ 200g モスピラン顆粒水溶剤 25g	45 日 前 前日	4 回 3 回	500	黒星病、黒点病 うどんこ病、赤星病 アブラムシ類、リンゴワタムシ カメムシ類、カイガラムシ類	① （注意） ユニックス Z 水和剤は、サクランボに著しい薬害が生じるので絶対かからないように注意する。 ② ユニックスZ水和剤に代えて、フルーツセイバー2000 倍（前日、3 回）でもよい。
月 日	第 6 回 6 月上旬 （前回より 15 日後）	展着剤 *①、② 10mℓ アントラコール顆粒水和剤 200g スプラサイド水和剤 *③ 66g	45 日 前 30 日前	4 回 2 回	600	黒星病、黒点病 斑点落葉病、褐斑病、炭疽病 アブラムシ類 シンクイムシ類、ハマキムシ類 カイガラムシ類、カメムシ類	① カイガラムシ類の発生が心配される場合は、アプロードフロアブル 1000 倍（30 日前、2 回）を加用する。 ② シンクイムシ類の多い地帯は、コンフューザーR を 6 月上旬に設置する。（10a 当り 100 本） ③ スプラサイド水和剤に代えて、ダイアジノン水和剤 34 の 1000 倍（30 日前、4 回）でもよい。
月 日	第 7 回 6 月中下旬 （前回より 15 日後）	展着剤 *① 10mℓ キノドーフロアブル 125mℓ オーソサイド水和剤 80 125g オリオン水和剤 40 *② 100g	14 日 前 14 日 前 前日	4 回 6 回 2 回	600	炭疽病、輪紋病 斑点落葉病、褐斑病 シンクイムシ類、ハマキムシ類 キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ カイガラムシ類、ケムシ類	① 通常展着剤に代えて、固着性展着剤のアビオン E の 1000 倍を使用すると薬液付着効果が高まる。 ② オリオン水和剤 40 に代えて、サイアノックス水和剤 1000 倍（45 日前、2 回）でもよい。ただし、収穫前使用時期に注意する。
月 日	第 8 回 7 月上旬 （前回より 15 日後）	展着剤 *①、② 10mℓ コロマイト乳剤 100mℓ バイスロイドEW 50mℓ ナリア WDG *③ 50g	前日 7 日 前 前日	1 回 4 回 3 回	600	炭疽病、輪紋病 斑点落葉病、褐斑病 ハダニ類 シンクイムシ類、ハマキムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	① （注意） 褐斑病の発生が心配される場合は、トップジン M 水和剤 1500 倍（前日、6 回）を加用する。 ② 輪紋病の発生が心配される場合は、ic ボルドー412 の 33 倍を 7 月初旬に特別散布する。ただし、早生種にはボルドー液は使用しない。 ③ ナリア WDG は、ピオーネ、サニールージュに薬害を生じる恐れがあるので飛散しないようにする。
月 日	特別散布 7 月中旬	展着剤 *①、② 10mℓ オーソサイド水和剤 80 125g	14 日前	6 回	600	輪紋病、炭疽病 斑点落葉病、褐斑病	① （注意） 散布時期は前回より 7～10 日後を目安とする。 ② 通常展着剤に代えて、固着性展着剤のアビオン E の 1000 倍を使用すると薬液付着効果が高まる。
月 日	第 9 回 7 月中下旬 （前回より 15 日後）	展着剤 *① 10mℓ ダニサラバフロアブル *② 100mℓ ダーズバン DF 33g オキシラン水和剤 200g	前日 14 日 前 14 日 前	2 回 2 回 4 回	600	輪紋病、炭疽病 斑点落葉病、褐斑病 ハダニ類 シンクイムシ類、ハマキムシ類 クワコナカイガラムシ	① 通常展着剤に代えて機能性展着剤のササラ 2000 倍を使用すると薬液の広がりがよくなり、散布後の乾きも早くなる効果がある。 ② ダニサラバフロアブルに代えて、スターマイトフロアブル 2000 倍（前日、1 回）を使用してもよい。
月 日	第 10 回 8 月上旬 （前回より 15 日後）	展着剤 *①、② 10mℓ ディアナWDG *③ 10g ダイパワー水和剤 100g	前日 14 日 前	2 回 3 回	600	輪紋病、炭疽病 褐斑病、斑点落葉病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ	① 通常展着剤に代えて機能性展着剤のササラ 2000 倍を使用すると薬液の広がりがよくなり、散布後の乾きも早くなる効果がある。 ② （注意） 褐斑病の発生が心配される場合は、ベンレート水和剤 3000 倍（前日、4 回）を加用する。 ③ ディアナWDGの使用倍率に注意する。
月 日	特別散布 8 月中旬	展着剤 10mℓ バリアード顆粒水和剤 50g	前日	3 回	600	シンクイムシ類 カメムシ類 キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ	① （注意） 散布時期は前回より 7～10 日後を目安とする。
月 日	第 11 回 8 月中下旬 （前回より 15 日後）	展着剤 10mℓ プリントフロアブル25 *① 33mℓ イカズチWDG 66g オマイト水和剤 *②、③ 133g	前日 前日 3 日 前	4 回 2 回 1 回	600	輪紋病、炭疽病、斑点落葉病 褐斑病、すす点病、すす斑病 ハダニ類 シンクイムシ類、ハマキムシ類 キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ	① （注意） 早生種は、オマイト水和剤に代えてマイトコーネフロアブル 1000 倍（前日、1 回）を使用してもよい。 ② （注意） オマイト水和剤は、ナシ類に登録が無いので、飛散しないように注意する。
月 日	第 12 回 9 月上旬 （前回より 15 日後）	展着剤 10mℓ ストライド顆粒水和剤 *① 66g ダントツ水溶剤 25g	3 日 前 前日	3 回 3 回	600	炭疽病、斑点落葉病、褐斑病 すす点病、すす斑病 シンクイムシ類、カメムシ類 キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ コナカイガラムシ類、リンゴワタムシ	① （注意） ストライド顆粒水和剤は、高温時に散布すると薬害が生じる恐れがあるので注意する。
月 日	第 13 回 9 月中下旬 （前回より 15 日後）	展着剤 10mℓ ペフラン液剤 25 *① 66mℓ	前日	3 回	600	すす点病、すす斑病 斑点落葉病、褐斑病 （シンクイムシ類）（カメムシ類） （キンモンホソガ）（ギンモンハモグリガ）	① （注意） シンクイムシ類の食害が心配される場合は、アルバリン顆粒水溶剤 2000 倍（前日、3 回）を加用する。

◆ 安全・安心な農産物生産のために、防除・使用基準を厳守しましょう。